

謹んで新年のお慶びを申し上げます



奥尻町長 新村卓実

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。2017年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

皆様にとりまして、素晴らしい一年となりますことを、心からお祈り申し上げます。

また、平成21年に奥尻町長に就任して以来、本町を取り巻く情勢が大きく変化する中、私はいかなる課題にも、町民の皆様そして奥尻町のことを第一に考え、町政運営に全力を尽くしてまいりました。町民の皆様には、この間、深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと1月1日には、町制施行50周年を迎え、7月には記念式典と札幌交響楽団によるコンサートなど記念行事を実施し、過去に風雪に耐えてこの奥尻島を切り開いた先人の偉業をたたえるとともに、緑豊かな神威の山がもたらした栄養源が日本海に流れ込み、豊かな

海を育んできたことに感謝し、今後もこの恵まれた自然を維持することを誓ったところがあります。

また、道内においては道民が待ち望んでおりました、北海道新幹線が3月26日に開業し、北海道から九州まで新幹線で結ばれることになりました。

新幹線開業による効果は、函館市を中心に好影響をもたらしており、今後も好景気が続く見通しであります。しかし、第一次産業においては8月下旬に1週間に3つの台風が道内に上陸し、河川の氾濫や流木の海への流出などにより、タマネギやホタテ貝などを中心とした農林水産業が大きな被害を受けました。さらに、回遊魚のサケやイカなども海水温の影響から来遊量が少なく、不漁に見舞われた年でありました。

一方国内においては、7月には参議院議員選挙が行われ、政府与党が勝利し、8月には第3次安倍再改造内閣がスタートしました。

また、ブラジルのリオデジャネイロで開催されたオリンピック・パラリンピックでは多くの日本人が活躍され、国民に感動と喜びを与えました。

9月には北朝鮮が、中距離弾道ミサイル「ノドン」とみられるミサイル3発を日本海に向け発射し、本島西方沖200キロの我が国の排他的経済水域に落下するなど、近隣諸国との関係が緊張状況にあります。さらに先月には、日口首脳会談が行われ、北方領土問題が協議されましたが、私としては道民の一人として、一日も早い北方領土の返還を望むものであります。

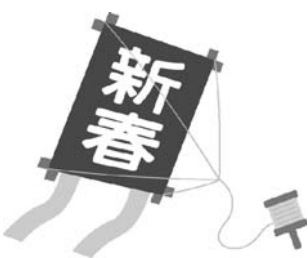
次に今年の町政についてであります。

本年2月には、町長選挙が行われることから、新年度予算は骨格予算となりますが、平成29年度に向けた施策について何点か述べたいと思います。

まず公共施設の老朽化対策として、防災行政無線のデジタル化に向けた整備を行います。また、観光客からも苦情がでております北海道南西沖地震災害救援物資保管のための「うにまる倉庫」を撤去します。

次に5月1日から新造船が就航することとなっておりますフェリー航路や函館市と結ばれている航空航路の住民運賃の値下げにつきまして「有

副町長	田中敦詞
総務課長	新谷順二
地域政策課長	松川博俊
住民課長	三浦成一
建設水道課長	片石裕文
水産農林課長	小山内政悦
企業管理課長	三上郁也
発電課長	松田雅樹
青苗支所長(兼)環境センター所長	木村孝義
空港管理事務所長	深瀬洋治
会計管理者	安藤寛
他職員一同	一同



新たな一歩を踏み出す 希望に満ちた「町」へ...

人国境離島地域保全特別措置法」を活用します。

次に中高一貫教育についてであります。

昨年度から町立奥尻高校がスタートし、今年4月1日からは奥尻高校敷地内で奥尻中学校と青苗中学校が統合され、新奥尻中学校がスタートします。

特に奥尻高校においては、島をまるごと学校とみなす「まなび島奥尻プロジェクト」を立ち上げ、島で学ぶ3年間として、全国から生徒を募集しているところであり、そのための島外生への補助制度を予算化しております。

教育予算は今後、奥尻島を担っていく次世代の子供達への先行投資であると考えております。

次に本町の主要産業であります漁業におきましては、近年ウニの高価格が続いておりますが、主要漁業のイカやホッケの水揚量が減少しており、今後は漁港を利用した養殖漁業を積極的に展開する方向で、北海道や国の補助事業を活用しながら、ウニの深浅移植事業やアワビやナマコなどの種苗放流、イワガキやホタテなどの養殖事業を継続して進めていくべきと考えております。

また、地域戦略産品に要する海上輸送経費に関する支援なども継続してまいります。

次に函館建設管理部が管理する道道奥尻島線の整備事業につきましましては、新年度から塩釜工区（奥尻地区）の着工が計画されておりますが、その他の長浜区間や道道の越波対策に関して予算増額を北海道に要望してまいります。また、各種漁港や港湾の整備についても国や北海道に要望してまいります。

次に観光関連としては、第4回ムーンライトマラソンが6月17日に開催されますし、7月3日・8月25日には大型旅客船「にっぽん丸」が寄港する予定となっております。町民の皆様には、今年もご協力をよろしくお願いいたします。

次に財政状況であります。平成27年度の実質公債比率は、12・2%で早期健全化の基準となる25%を下回っており、良好な財政状態を維持しておりますが、自治体の貯金とあります財政調整基金積立金は檜山管内で一番低い積立金額で、2番目に低い町と比較しても、15億円以上低い積立金となっておりますので、財政規模に合った事業予算の計画

や執行を実施していきたいと考えております。

そして、本年4月からは「有人国境離島地域保全特別措置法」が施行され、「地域社会維持推進交付金（仮称）」が創設される予定でありますので、これらを活用して本町振興の新たな一歩を踏み出す年にしたいと思っております。

結びに本年が町民皆様にとりまして、希望に満ちた幸運多き年となりますよう心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成二十九年 元旦



奥尻町国民健康保険病院

- 院長 長竹下和良
- 副院長 柴田正
- 歯科医長 泉里豪俊
- 薬局長 渡邊一史
- 看護師長 前田裕子
- 臨床検査室長 大谷洋嗣
- 事務局長 崎武巳
- 他職員 一同

奥尻町選挙管理委員会

- 委員長 小林賢三
- 他委員 一同
- 書記長 新谷順二

奥尻町農業委員会

- 会長 海老原浩
- 他委員 一同
- 事務局長 小山内政悦

奥尻町監査委員

代表監査委員

- 佐藤稟一
- 他委員 一同
- 事務局長 山崎和範



奥尻町議会議長 奥尻 敏也

若い世代が安心して暮らせる「奥尻」を目指して

町民の皆様、新年あけましておめでとございます。

平成29年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、漁業においてはウニの高単価とナマコの安定価格により漁期が短い漁種においては安定した水揚げがありました。イカ・タコ・ホッケ漁など水揚げ高の要となる、半年以上の漁期操業が出来る漁船漁業の低迷、また、不漁や異常気象により出漁日数も減少されたことなどにより加工業者を始め関連する商工業者にも大きな影響を及ぼしたものと思っております。

また、農業においては米・アスパラなどは安定的な生産を保っており、素牛の取引価格が高値で推移されている現状であることなど今後も期待するところがあります。

奥尻町の経済はここ数十年

は農業・水産業の一次産業、観光産業、島のインフラ整備を主とした公共事業の3本の柱のもと、維持され、雇用も保たれてきました。

そして、災害復興を短期間で終えた頃からここ10年は加速度を増して3本の柱すべてが低迷しております。

国・北海道・奥尻町を取り巻く時代の流れは、自然環境に左右される要因も大きく、島独自では即効性のある打開策を模索しながらもなかなか見つからない現状にあると思っております。

それぞれの機関・企業・行政と日々努力されておると思いますが、過疎化・高齢化・人口減少のスピードを緩めるためには、それぞれの産業において一人でも多くの若い後継者の確保が必要不可欠であり、誰しもが望んでいる事です。

あらためて町民一人一人の想いを一つにして、次世代に

引き継ぐためにも、これまで以上に町民を主役とした町づくりを進めて行くうえで、さらなる連携強化に努めて行かなければと考えております。

新しい年には、町立高校移管による島外からの生徒募集、地方活性化事業などによる新たな取り組みや、島の情報発信のメニューの拡大、5月1日には町民の生活航路の安全性や観光産業の振興にインパクトがあるフェリーの大型船就航など離島奥尻に欠かせない明るい材料もあります。

まだまだ、奥尻町としての課題は山積しておりますが、皆様に与えて頂いた議会議員としての責務の遂行には議会ですっかり議論を重ね、さらなる努力を積み重ねて取り組んで参りたいと決意を新たにしております。

終わりに、新年が皆様にとりましてより良い一年になりますようお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

平成二十九年 元旦

奥尻町議会

副議長・総務産業常任委員・議会議長
議会議長
青坂 賢二

総務産業常任委員長・広報編集特別副委員長・議会運営委員
齋藤 伸彦

議会運営委員長・総務産業常任委員
寅尾 裕志

総務産業常任副委員長・議会運営副委員長・広報編集特別委員
工藤 勇

総務産業常任委員
紀伊国 俊美

総務産業常任委員・檜山広域行政組合議会議長
水野 論

総務産業常任委員・広報編集特別委員・檜山広域行政組合議会議長
松塚 政継

事務局長
山崎 和範

他職員 一同



奥尻町教育委員会教育委員長

上野 史朗

ふるさとに学び

次代を担うあたたかい人づくり

町民の皆様、あけましておめでとございます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、奥尻町町制施行50周年記念札幌交響楽団奥尻島公演が、北海道公立学校教職員互助会のご支援により、青苗中学校体育館で開催されました。

オーケストラの演奏会は大いに盛り上がり、翌日には中高生向けの講習会等も開催されるなど、優れた楽器演奏指導や音楽に触れることができました事に、心より嬉しく思っています。

さて、平成28年1月に制定されました奥尻町教育大綱では、教育目標を「ふるさとに学び、次代を担うあたたかい人づくり」とし、更に3つの基本方針を定めました。これは、教育を通して町民一体と

なって「人づくり」を進めて行こうとするものです。この大綱に基づき、学校教育や社会教育の更なる充実を図るとともに、時代の変化に対応した教育施策を展開してまいります。

学校教育関連におきましては、北海道教育委員会の理解を得て町立となり、平成29年度からは、全国から生徒を募集することとなりました。学校見学会には数家族の参加もあり、春に多くの新入生を期待しているところでです。

また、新年度には奥尻中学校と青苗中学校が統合し、新生奥尻中学校として再出発となります。新校舎は奥尻高等学校の敷地内に3月完成予定となっており、連携型中高一貫教育が始まります。

地域に根ざした6年間の学校生活の中で、子どもたちがたくましく成長することが

きるよう、効果的な施策を推進して参ります。

人口流出と少子高齢化が進む本町にとって、未来を担う児童・生徒は大切な島の宝であり、将来の奥尻を創り、継続していく原動力となります。

その彼らに知識と教養を与え、自立と自律を促し、将来の指針を示すことが、教育委員会の使命と考えます。地域の皆様には、どうかこの子どもたちを地域全体で守り育ててくださるよう、お願い申し上げます。

また、幼稚園教育におきましては預かり保育も充実して参りましたし、子育て支援のために更なる制度充実を図って参りたいと考えております。

社会教育関連では、海洋研修センター図書室の充実を図っており、学校の図書活動との連携にも力を注いで参ります。

また、幼児を中心とした「本の読み聞かせ」も町民ボランティアの協力を得ながら毎月開催しており、引き続き活動の領域を広げて参ります。

生涯学習の充実と文化・ス



スポーツ行事については、「第8次奥尻町社会教育中期5カ年計画」に沿いながら、町のニーズにあった事業展開を図り、気軽に参加できる生涯学習や行事の環境作りに引き続き努めて参ります。

皆様におかれましては、今後とも教育行政に深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸を心から申し上げます。新年のご挨拶と致します。

平成二十九年 元旦

奥尻町教育委員会

教育委員長 佐藤 康博

〃 〃 千田 真紀子

〃 〃 水野 展久

教育長 石島 孝司

事務局長 鴈原 哲夫

他職員 一同